

現場管理の効率化等

現場名	発注者	技能者
Aビル	○×建設	建設 次郎
B道路	○×建設	建設 太郎
C住宅	○×建設	建設 三郎

- ☆複数の現場における技能者の就業状況や現場状況をシステムで一元的に確認（日単位）できるようになり、現場管理の効率化が期待できる。
- ☆工事完了後であっても、どの現場にどの技能者が入場したか確認が可能であり、現場のコンプライアンスの確保やトレーサビリティの確保が期待できる。

技能者及び技能者を雇用する事業者の施工力の確認

本人情報

0123456789
建設 太郎
S60/07/01
男
03-xxxx-xxxx

就業履歴

○○建設(株)
・A市住宅建設工事
・X市住宅建設工事
就業日数 計○○日

保有資格

×××× 資格 ○○○ 研修受講

技能者の技能や経歴を顧客にアピール

技能者の経験や資格取得状況を確認

- ☆技能者の採用時などに現場の経験や資格取得状況を簡易に確認できるようになる。
- ☆事業者情報を閲覧することで、優れた技能者を雇用する事業者の選定などに活用できる（※）。
- ※技能者の就業履歴情報の閲覧には雇用事業者及び技能者本人の同意が必要
- ☆建設に携わった技能者の技能経歴を顧客にPRできる

業界統一のシステム構築による合理化

A社 システム B社 システム C社 システム

開発・運用費 開発・運用費 開発・運用費

キャリアアップシステム

運営費

就業履歴を蓄積する統一システムへの参加でコスト削減

- ☆技能者の真正性を確保したうえで就業履歴を蓄積する業界統一のシステムに参加することで、独自の就労履歴システムの技能者の真正性(本人確認・資格の保持等)確保のためのコストが節約できる。
- ※既に独自システムを導入している企業にとっても、就業履歴を蓄積する機能と連携することで、独自システムの利便性が増す